

視聴率から振り返る「テレビアニメ」の歴史

当社は視聴率調査を開始してから昨年で50周年を迎えることができました。そして今年、日本初のテレビアニメ「鉄腕アトム」が放送されてから50周年。そこで、多くの方がご覧になってきた「テレビアニメ」の50年の歴史や昨年2012年の動向を、視聴率データ（関東地区）をもとに振り返りたいと思います。

writer

ソリューション推進局
テレビ事業推進部
岸本 佳純



writer

ソリューション推進局
テレビ事業推進部
福永 宗一朗



アニメ番組数の変化

日本初のテレビアニメ「鉄腕アトム」は、今から50年前の1963年1月1日に放送を開始しました。記念すべき第1回の視聴率は24.8%。制作に時間がかかるテレビアニメを毎週オンエアすることは不可能という当時の常識を打ち破り、4年もの放送を続け、最高視聴率は40.3%と1960年代のアニメ番組視聴率のトップを記録するなど、日本を代表するアニメとなりました。以降、テレビアニメは増加し1980年代に全盛期を迎えますが【図1】、近年のアニメ番組の量を見てみると、1980年代後半から減少傾向が続き、2000年には1983年の4割にまで減りました。時間帯別にテレビアニメの番組数を見てみると、1990年代後半は午後帯（12～18時）の番組が激減しています。これは夕方帯の情報番組が枠を拡大し、再放送枠が減っていることによるものです。

反対に、1990年代後半から18時以降の番

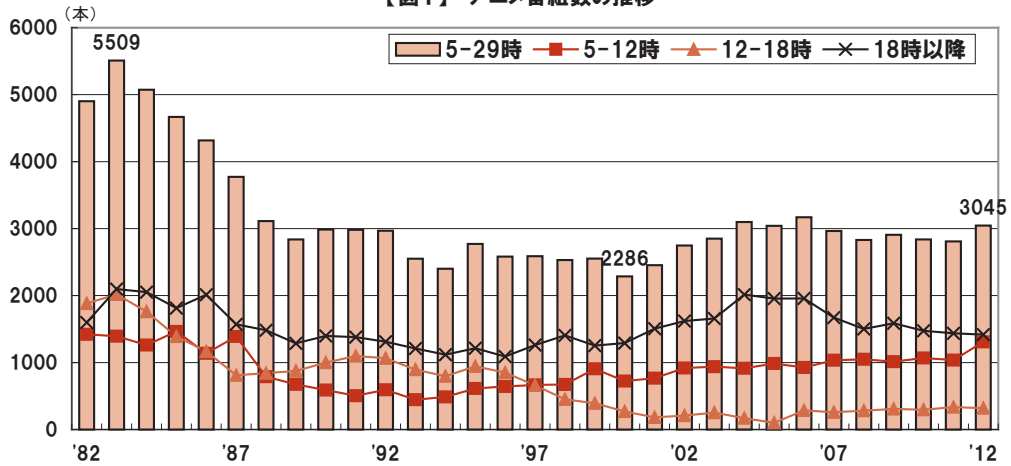
組数が増えています。これは、1995年に放送された「新世紀エヴァンゲリオン」のブームや、ビデオソフトの売上を収益源とするビジネスモデルが広がったことなどを背景に、「深夜アニメ」というジャンルの普及が進んだためです。【図2】は、深夜（24時以降）のアニメ番組数の推移を表したのですが、2001年以降、深夜アニメが増加していくことがわかります。少年誌や青年誌の人気マンガのアニメ化だけでなく、ライトノベルや少女マンガ原作の深夜アニメも登場し、2006年まで本数が増加する傾向は続きました。2006年以降も「のだめカンタービレ」、劇場版もヒットした「けいおん！」などの話題作もあり、比較的多い本数を維持しています。

また、1990年代後半から緩やかに増加しているのが午前帯（5～12時）のアニメです。19時台のアニメ枠の減少に加え、小中学校の週休2日制の普及（開始当初は隔週）もあり、土曜午前中にアニメ枠が増加しました。特に2012年は、増加量が多く、合計番組数も2006年以来3000番組を超えた年となりました。

TOPICS 「鉄腕アトム」特別展

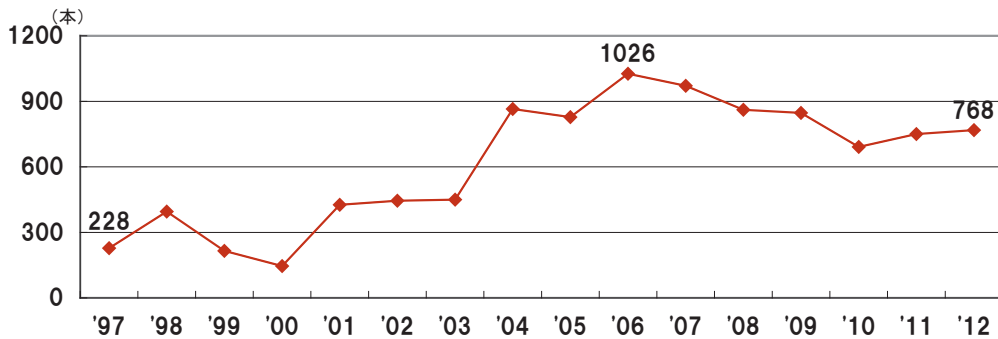
この記事執筆していた頃、「鉄腕アトム放送50周年記念 アトムが飛んだ日」という特別展が開催されておりましたのでお伺いしてきました。「鉄腕アトム」をアニメ化するまでの経緯や苦労、毎週アニメを放送するためにコマを効率良く使う工夫、実際の直筆原稿やセル画などが展示されており、手塚治虫氏のアニメに対する強い想いを感じ取ることができました。また、第1回の放送を見ることができ、制作者の方々の凄まじい努力によってこのテレビアニメが作られ、そのおかげでテレビアニメが発展し今日に至るのかと思うと、感慨深いものがありました。

【図1】 アニメ番組数の推移



※ビデオリサーチの番組種目（16分類）における「アニメ」の年間総放送量を掲載
 ※集計期間：1982年～2012年（各年1月1日～12月31日、ただし1982年～1986年はテレビ視聴率季報より集計）
 ※集計期間内に地上波民放5局＋NHK総合で放送された、放送分数15分以上のレギュラー番組を集計
 ※複数回放送がある番組については、各放送回を1番組としてカウント

【図2】 24時以降のアニメ番組数の推移



※ビデオリサーチの番組種目（16分類）における「アニメ」の年間総放送量を掲載
 ※集計期間：1997年～2012年（各年1月1日～12月31日までを1年分として集計）
 ※集計期間内に地上波民放5局＋NHK総合で放送された、放送分数15分以上の番組を集計
 ※複数回放送がある番組については、各放送回を1番組としてカウント



特別展の入口の様子



当時の写真や原稿、飛び出すアトムも展示されていました。



第1回の映像を上映していました。アトムとお茶の水博士の出会いが描かれていました。

※特別展を催されていた練馬区立石神井公園ふるさと文化館に許可をいただき撮影させていただきました。ご協力ありがとうございました。

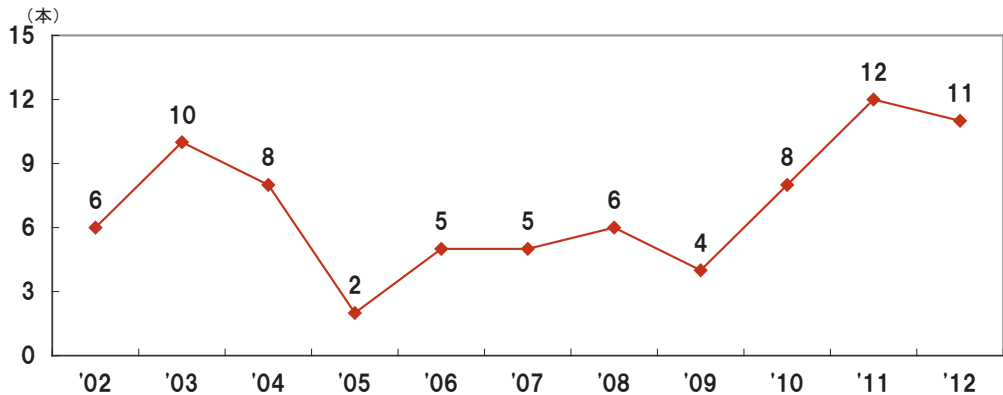
11/21

アニメ映画の放送が増加傾向

テレビアニメの他にも、アニメ映画の放送が近年増えています。【図3】は、映画の視聴率トップ50にランクインしたアニメ映画の本数の推移を示しています。「千と千尋の神隠し」「となりのトトロ」などジブリ作品の他にも、「サマーウォーズ」「エヴァンゲリオン」「名探偵コナン」「ルパン三世」と様々なアニメ映画がランキングに入っており、アニメ

映画が多い傾向が続いているようです。2012年は、興行収入が60億円を突破した「ワンピース」劇場版最新作や、公開4日目にして動員100万人を突破し衰えぬ人気を見せた「エヴァンゲリオン 新劇場版：Q」、【サマーウォーズ】の細田守監督の最新作「おおかみこどもの雨と雪」のヒットなど、アニメ映画の話題が多い年となりました。今後もアニメ映画がテレビで放送されれば上位ランキングに入ってくる傾向は続きそうです。

【図3】「映画」視聴率上位50位以内のアニメ映画本数の推移



※ビデオリサーチの番組種目（16分類）で「映画」に分類される、放送分数が15分以上の番組を集計
※集計期間：2002年～2012年（各年1月1日～12月31日までを1年分として集計）
※対象局：地上波民放5局＋NHK総合 ※放送時間帯：5:00～29:00

高視聴率アニメ番組の変遷

次に、各年代で視聴率が高かったアニメ番組について見ていきたいと思います。次ページに1972年から5年ごとのテレビアニメの高視聴率番組を載せています。1969年から放送を開始し現在も続いている「サザエさん」はどの年でもトップであり、長年愛され続けている国民的アニメだということが分かります。他にも2013年にアニメ化40周年を迎える「ドラえもん」をはじめ、「ちびまる子ちゃん」「クレヨンしんちゃん」「名探偵コナン」など長寿アニメ番組がトップ10の常連となっています。

年代ごとにランキングを見ていくと、1970・1980年代は赤塚不二夫原作「モーれつア太郎」「天才バカボン」や藤子不二雄原作「ドラえもん」「忍者ハットリくん」など、手塚治虫が住んでいたトキワ荘で共同生活をした漫画家原作のアニメが人気を博していました。また、1970年代には「マジンガーZ」が登場し、その後「機動戦士ガンダム」が一世を風靡するなど、ロボットアニメブームが起こったのもこの時代です。

1980～1990年代にかけては、「Dr. スランプ」「ドラゴンボール」「ハイスクール！奇面組」「幽遊白書」「こちら葛飾区亀有公園前派出所」など、週刊少年ジャンプに連載された人気マンガ原作のアニメが上位にランクインしており、この傾

向は、現在でも「ワンピース」や「トリコ」などに引き継がれています。また、1970年代の「巨人の星」に代表されるスポ根アニメから「タッチ」「YAWARA!」のような、スポーツだけでなく恋愛要素も取り入れたアニメが人気となった時代へ移っていきました。

2000年以降になると、「ルパン三世」をはじめ

め、それまで人気だったアニメのスペシャル番組が数多くランクインしています。また、2007年・2012年のランキングには、午前帯に放送されているアニメも多くランクインしていることも特徴的です。そのほか、「プリキュア」シリーズは長期に渡って上位にランクインしており、女の子向けのアニメとしては異例の人気がうかがえます。

【1972年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	33.1
2 国松さまのお通りだい!	フジテレビ	19:00-30	26.2
3 新・オバケのQ太郎	日本テレビ	19:30-30	25.8
4 赤胴鈴之助	フジテレビ	19:00-30	25.7
5 科学忍者隊ガッチャマン	フジテレビ	18:00-30	25.5
6 もーれつア太郎	テレビ朝日	17:25-35	23.0
7 月光仮面	日本テレビ	19:00-30	21.5
8 花のびゅんびゅん丸	テレビ朝日	17:25-30	21.0
9 いなかっぺ大将	フジテレビ	18:00-30	20.6
10 魔法使いサリー	テレビ朝日	17:50-30	20.5

【1977年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	36.6
2 まんが日本昔ばなし	TBS	19:00-30	29.6
3 タイムボカンシリーズ・ヤッターマン	フジテレビ	18:30-30	28.4
4 あらいぐまラスカル	フジテレビ	19:30-30	27.8
5 ルパン三世	日本テレビ	19:00-30	25.9
6 新巨人の星	日本テレビ	19:00-30	24.7
7 一休さん	テレビ朝日	19:30-30	24.5
8 ドカベン	フジテレビ	19:00-30	24.3
9 元祖天オバカボン	日本テレビ	18:00-30	23.2
10 サスケ	日本テレビ	17:30-30	23.1

【1982年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	35.7
2 Dr.スランプ	フジテレビ	19:00-30	35.4
3 ドラえもん	テレビ朝日	19:00-30	30.5
4 忍者ハットリくん	テレビ朝日	9:30-30	28.0
5 まんが日本昔ばなし	TBS	19:00-30	26.1
6 うる星やつら	フジテレビ	19:30-30	24.7
7 機動戦士ガンダム	テレビ朝日	17:30-30	24.1
8 ルパン三世	日本テレビ	17:00-30	22.3
9 サザエさん	フジテレビ	19:00-30	21.9
10 はいからさんが通る	日本テレビ	18:00-30	21.7

【1987年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	34.1
2 タッチ	フジテレビ	19:00-30	30.8
3 ドラゴンボール	フジテレビ	19:00-30	29.5
4 ゲゲゲの鬼太郎	フジテレビ	18:30-30	28.5
5 ドラえもん	テレビ朝日	19:00-30	27.7
6 陽あたり良好!	フジテレビ	19:00-30	25.0
7 ハイスクール! 奇面組	フジテレビ	19:30-30	24.0
8 まんが日本昔ばなし	TBS	19:00-30	22.9
9 藤子不二雄ワイド	テレビ朝日	19:00-57	21.3
10 北斗の拳	フジテレビ	19:00-30	20.8

【1992年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	33.3
2 ちびまる子ちゃん	フジテレビ	18:00-30	27.8
3 ドラゴンボールZ	フジテレビ	19:00-30	25.7
4 ケレツ大百科	フジテレビ	19:00-30	23.1
5 サザエさん(再)	フジテレビ	19:00-30	22.0
6 ドラえもん	テレビ朝日	19:00-30	21.0
7 ツヨシしっかりしなさい	フジテレビ	18:00-30	20.5
8 YAWARA!	日本テレビ	19:30-30	19.7
9 嵐を呼ぶ園児クレヨンしんちゃん	フジテレビ	19:00-30	19.7
10 幽遊白書	フジテレビ	18:30-30	19.0

【1997年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	26.8
2 名探偵コナン	日本テレビ	19:30-30	23.1
3 クレヨンしんちゃん	テレビ朝日	19:30-30	21.9
4 金曜特別ロードショー・ルパン三世スペシャル・ワルサーP38	日本テレビ	21:03-111	21.8
5 ちびまる子ちゃん	フジテレビ	18:00-30	21.0
6 ドクターズランプ	フジテレビ	19:00-30	20.3
7 ドラえもん	テレビ朝日	19:00-30	19.2
8 ドラゴンボールGT	フジテレビ	19:00-30	18.9
9 ポケットモンスター	テレビ東京	18:30-30	18.6
10 こちら葛飾区亀有公園前派出所	フジテレビ	19:00-30	18.4

【2002年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	25.6
2 名探偵コナン	日本テレビ	19:30-30	21.3
3 ちびまる子ちゃんSP	フジテレビ	18:00-60	21.0
4 金曜特別ロードショー・ルパン三世VS名探偵コナン	日本テレビ	21:03-111	20.6
5 こちら葛飾区亀有公園前派出所	フジテレビ	19:00-30	17.7
6 深夜X	日本テレビ	19:00-30	16.9
7 ワンピース	フジテレビ	19:30-28	16.7
8 ドラえもん	テレビ朝日	19:00-30	15.1
9 あたしんち	フジテレビ	19:30-24	14.7
10 クレヨンしんちゃんSP	テレビ朝日	19:00-54	14.1

【2007年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	21.7
2 金曜特別ロードショー・ルパン三世SP・霧のエリュージヴ	日本テレビ	21:03-111	17.0
3 ちびまる子ちゃん	フジテレビ	18:00-30	15.8
3 土曜プレミアム・ミヨリの森	フジテレビ	21:00-130	15.8
5 クレヨンしんちゃん	テレビ朝日	19:30-24	13.2
6 ゲゲゲの鬼太郎	フジテレビ	9:00-30	12.3
7 ドラえもんSP	テレビ朝日	19:00-54	12.0
8 名探偵コナンSP	日本テレビ	19:00-60	11.2
9 ワンピース	フジテレビ	9:30-30	10.5
10 結界師	日本テレビ	19:00-30	8.6
10 Yes! プリキュア5	テレビ朝日	8:30-30	8.6

【2012年】

番組名	放送局	開始-分数	世帯視聴率
1 サザエさん	フジテレビ	18:30-30	21.3
2 ちびまる子ちゃんSP	フジテレビ	18:00-60	16.6
3 金曜ロードショー・ルパン三世VS名探偵コナン	日本テレビ	21:00-129	15.2
4 土曜プレミアム・ワビーエピソード・オフィハンドアイランドの冒険	フジテレビ	21:00-130	14.2
5 名探偵コナン	日本テレビ	18:00-30	12.2
6 ドラえもん	テレビ朝日	19:00-30	12.1
7 クレヨンしんちゃん	テレビ朝日	19:30-24	11.9
8 ワンピース	フジテレビ	9:30-30	11.1
9 トリコ	フジテレビ	9:00-30	8.7
10 スマイルプリキュア!	テレビ朝日	8:30-30	7.2

※対象番組: 放送分数15分以上のレギュラー番組
(16分番組/アニメ)
※集計期間: 各年1月1日~12月31日
※対象局: 地上波民放5局+NHK総合
(表記は現在の局名を使用)
※放送時間帯: 5:00~29:00
※複数放送回がある番組は、最高視聴率を掲載
(放送時の開始時刻、分数を掲載)
※再放送は別番組として集計

人気アニメの様々なリメイク

人気のアニメ番組は、リメイクされることも少なくありません。「ゲゲゲの鬼太郎」は、テレビアニメの中で最多の4回リメイクしており、5回目の放送である2007年でも視聴率トップ10にランクインしています(1回目の放送があった1968年のアニメ番組視聴率トップ10にもランクインしています)。また、2008年に漫画原作に近い形で放送された「墓場鬼太郎」は、深夜アニメとしては高い視聴率(平均世帯視聴率4.8%)を獲得しました。その他にも、1972年にランクインしている「科学忍者隊ガッチャマン」は、2011年から放送開始した「Z I P!」の中でコメディタッチの短編アニメとして「おはよう忍者隊ガッチャマン」が放送されていたり、1963年に放送開始した「鉄人28号」は50周年を迎える2013年4月に短編アニメとしてリメイクされたりするなど、様々な形で人気のテレビアニメを活かしていく取り組みが見られます。

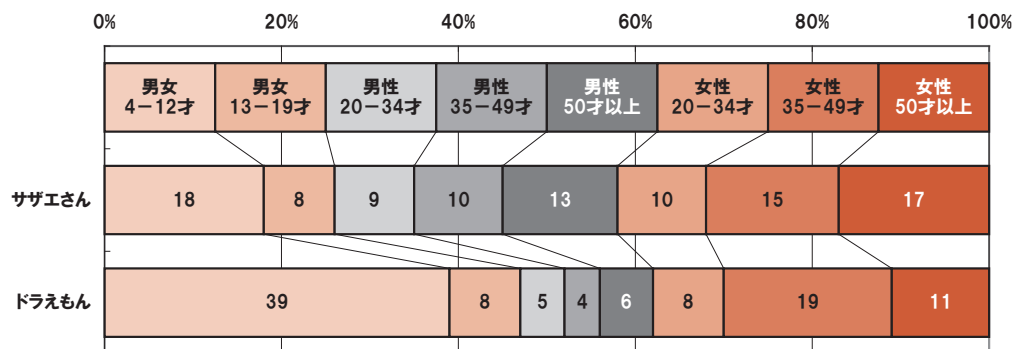
視聴者構成で見るアニメ視聴者の違い

さて、今も昔も人気のアニメである「サザエさん」や「ドラえもん」ですが、番組の視聴者に変化は見られるのでしょうか。番組視聴者の性年代構成比を10年前と比較してみたいと思います。

まず、2012年の「サザエさん」「ドラえもん」の視聴者構成を確認してみると【図4】、「サザエさん」は、男女4～12才が最も多いですが、20～34才の若年層も50才以上の高齢層も視聴しており、老若男女問わず幅広く見られるアニメとなっています。一方、「ドラえもん」は、男女4～12才が約4割を占め、次いで母親層の女性35～49才が多くなっており、母子で見られている番組だとわかります。

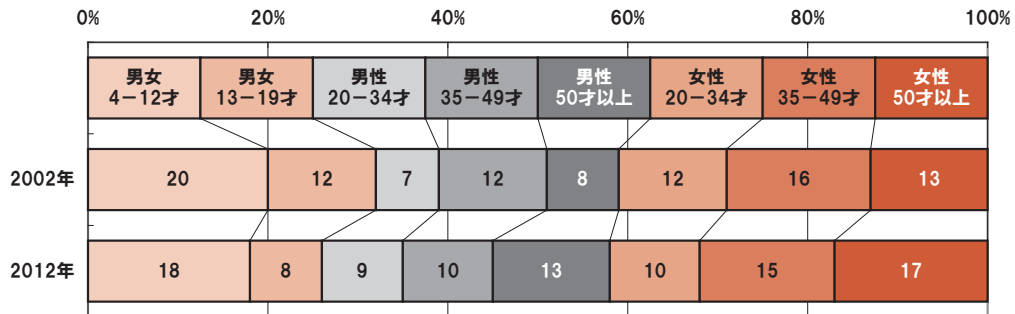
では、これらの番組の視聴者構成比を10年前と比較してみると、「サザエさん」【図5-1】は10年前と比べて、50才以上の割合が増えており、視聴者の年代が上がっている様子がかげえまます。一方、「ドラえもん」【図5-2】は20才以上の割合が増えているものの、男女4～12才のボリュームが圧倒的に多い状況は10年前と変わっていません。同じ長寿番組でも、時代が変わると、視聴者の年代が変わっていく番組もあれば、いつの時代も変わらない番組もあることがわかります。

【図4】 テレビアニメの視聴者構成比

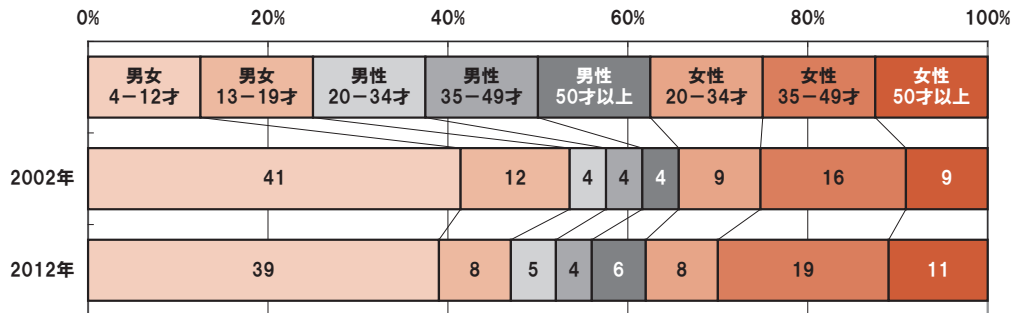


集計期間：2012年1月1日～12月31日

【図5-1】「サザエさん」の視聴者構成比



【図5-2】「ドラえもん」の視聴者構成比



集計期間：2002年1月1日～12月31日/2012年1月1日～12月31日

まとめ

テレビアニメの50年を振り返ってみますと、その時代に合った内容のアニメが登場しつつも、子供の心をつかむ番組は今も昔も変わらないことに気づかれます。また、50年間放送されてきた中で「テレビアニメ」というジャンルが世間に広く浸透し、深夜アニメなど大人でもアニメを見るということが普通になってきたこともあり、誰をターゲットとするのか、どのような人に見てもらいたいのか、「テレビアニメ」への想いをより一層深く考えなくてはならない時代を迎えているのではないかと思います。

2012年は、テレビアニメの番組数が上向い

ていたり、アニメ映画の視聴率が高かったりするなど、テレビで放送されるアニメにとって明るい話題も見受けられました。テレビ以外の動きとしても、ソーシャルメディア、スマホアプリをテレビアニメと連動させて楽しむという新たな試みも生まれています。例えば、日本テレビでは、エヴァンゲリオン新劇場版「序」・「破」の放送時、スマートフォンやデータ放送を使い映画内の名セリフシーンとシンクロできる「ムーヴィシンクロナイザ」という企画を実施していました。テレビアニメとインターネットの連動企画は今後もっと活発になっていくと思いますし、それによって、また新たな道が開けてくるのかもしれませんが、様々な取り組みによって、テレビアニメが今後さらに盛り上がっていくことを期待したいと思います。